

## 一般向け

### 質問

ShakeOut はどこが実施しているのですか。主催者は誰ですか。

### 回答

ShakeOut は主に自治体を中心になって実施しています。従って主催者は自治体がほとんどです。本会は ShakeOut について提唱し、認定基準を設けて適切なシェイクアウト訓練の実施をサポートする、学習資料を提供する、ホームページ等で広報を行う等の活動を行っています。

### 質問

今までに国内で何回シェイクアウトは実施されましたか。何人が登録しましたか。

### 回答

本会ホームページ(<http://www.shakeout.jp/>)に掲載されています。なお、ホームページに掲載されているのは、本会に対して実施の連絡があり、かつ [こちら](#) で示す認定基準を満たした主催者の訓練のみとなります。従って、本会ホームページに掲載されていない訓練については「シェイクアウトの実施回数」にも「シェイクアウトの登録者数」にもカウントされていません。 <詳しくは [主催者向けよくあるお問い合わせ](#) をご覧下さい>

### 質問

ShakeOut(シェイクアウト)はどういう意味ですか。また、Drop Cover Holdon など、なぜ日本語で紹介しないのですか。

### 回答

ShakeOut(以下「シェイクアウト」)は「(地震の)揺れに備えろ!」という安全行動の標語、かけ声をイメージして、アメリカの地震研究チームが研究成果を広く知らせる防災訓練のために考えた造語です。従って“Shake”を”Out”するといった英単語の組み合わせではなく”ShakeOut”でひとつの単語です。

シェイクアウトは防災訓練の手法ではなく、取り組み(例えば「クールビズ」など)として世界的に広まっています。日本も地震大国としてこの取り組みに賛同し、シェイクアウトの名称やドロップ、カバー、ホールドオンという表現を用いています。

ただし、英語だけだと日本国内では分かりにくいいため、シェイクアウトは「いっせい(一斉)防災訓練」、ドロップ・カバー・ホールドオンはそれぞれ「まず低く、頭を守り、動かない」と意識した言葉で表現しています。

## 質問

これまでの訓練と何が違うのですか。

## 回答

シェイクアウトは安全行動をとる訓練、あるいは安全行動を示す言葉ではなく、こちらで示している1. 事前登録、2. 事前学習、3. 訓練開始、4. ふりかえり、の4つの段階を踏まえた訓練の総称です。従来の訓練でも安全行動訓練は行われていましたが、シェイクアウトは参加の意さえあれば「場所を問わない」「時間がかからない」「家庭・学校・企業の実態に応じた実施できる」といった特徴を持っています。このため、従来よりもはるかに多くの方に参加していただくことができる点が、これまでの訓練との違いです。

## 質問

なぜ、シェイクアウトに参加するための事前登録が必要なのですか。

## 回答

シェイクアウトは「個人・学校・その他団体(担当者)等」の訓練への自発的な参加を大切にしています。本会は、防災訓練に参加したい、安全行動や家庭、学校、会社等の防災対策をみんなで確認したい、という方であればどなたでも参加できるような訓練として、シェイクアウトを提唱しています。

事前登録の仕組みを設けることで、例え訓練当日に参加できなくなってしまったとしても「訓練に参加したい」「防災対策に取り組みたい」という意思是、誰もが示すことができます。ホームページ等には、様々な学習資料や被害想定が掲載されますので、たくさんの方に意思表示していただく（ホームページや各種資料を見ていただく）ことが、効果的な防災啓発につながっています。

## 質問

事前登録（参加申込）はどのようにしたらよいですか。インターネットが使えなければできませんか。

## 回答

主催者（自治体等）や本会のホームページに登録画面（メールフォーム）がありますので、そちらで事前登録をすることができます。登録画面がない場合でも、電話やファックスで登録を受け付けている場合もあります。詳しくは主催者にお問い合わせください。

### 質問

事前登録した情報を訂正するにはどうしたらいいですか。

### 回答

主催者にお問い合わせください。

### 質問

事前登録に費用はかかりますか。

### 回答

費用は不要です。

### 質問

個人情報はどうのようにして管理されているのですか。

### 回答

皆さまにご入力いただいた情報は、すべて主催者へと送られ、主催者が個人情報の保護に取り組みます。本会では、一切の個人情報を収集しておりません。